

# 歎異抄 第三章

【現代語訳】

善人ぜんにんなほもつて往生おうじょうをとぐ。いはんや悪人あくにんをや。

善人でさえ浄土に往生することができるのです。まして悪人はいうまでもありません。

しかるを世よのひとつねにいはく、「悪人あくにんなほ往生おうじょうす。いかにいはんや善人ぜんにんをや」。この条じょう、一旦いったんそのいはれあるに似たれども、本願ほんがん他力たうりきの意趣いしゆにそむけり。

ところが世間の人は普通、「悪人でさえ往生するのだから、まして善人はいうまでもない」といいます。これは一応もつともなようですが、本願他力の救いのおこころに反しています。

そのゆるゑは、自力じりき作善ぜんのひとは、ひとへに他力たうりきをたのむこころかけたるあひだ、弥陀みだの本願ほんがんにあらず。しかれども、自力じりきのこころをひるがへして、他力たうりきをたのみたてまつれば、真実しんじつ報土ほうどの往生おうじょうをとぐるなり。

なぜなら、自力で修めた善によって往生しようとする人は、ひとすじに本願のはたらきを信じる心が欠けているから、阿弥陀仏の本願にかなっていないのです。しかしそのような人でも、自力にとらわれた心をあらためて、本願のはたらきにおまかせするなら、真実の浄土に往生することができのです。

煩惱ぼんのう具足ぐそくのわれらは、いづれの行ぎやうにても生死しやうじをはなれることあるべからざるを、あはれみたまひて願がんをおこしたまふ本意ほんい、悪人あくにん成仏じやうぶつの

あらゆる煩惱を身にそなえているわたしどもは、どのような修行によっても迷いの世界をのがれることはできません。阿弥陀仏は、それをあわれに思われて本願をおこされたのであり、そのおこころはわたしども

ためなれば、他力をたのみ  
たてまつる悪人、もつとも  
往生の正因なり。

よつて善人だにこそ往生  
すれ、まして悪人はと、仰  
せ候ひき。

のような悪人を救いとして仏にする  
ためなのです。ですから、この本願  
のはたらきをおまかせする悪人こ  
そ、まさに浄土に往生させていただ  
く因を持つものなのです。

それで、善人でさえも往生するの  
だから、まして悪人はいうまでもな  
いと、聖人は仰せになりました。